

序文 — 『年報』第17号の発刊にあたって—

乙 政 正 太 (関西大学)

日本ディスクロージャー研究学会の学会誌である『年報 経営ディスクロージャー研究』(以下、『年報』)ですが、ようやく第17号を発刊するに至りました。期日通りに提出していただいた先生方には大変ご迷惑をおかけしています。

さて第17号の『年報』ですが、特集(1)において、前号には間に合わなかった特別プロジェクトの最終報告を掲載しています。特別プロジェクトの最終成果には、学会誌の論文掲載または市販本の発刊が義務となっています。本号に、委員会から最終報告と2本の論文が提出されました。

特集(2)では2017年6月24日に東北大学で開催された第15回研究大会での統一論題「現代社会におけるディスクロージャーの役割」を、特集(3)では2017年12月16日に法政大学で開催された第16回研究大会での統一論題「税務行動とディスクロージャー研究のあり方」をそれぞれ取り上げています。各報告の内容を取りまとめたものを掲載していますので、各研究大会でどのような議論がなされたのか、その様子をお届けできれば嬉しい限りです。

ただ残念なことに、今号には「論稿」セクションへの論文の提出がありませんでした。このセクションでは、研究大会において自由論題報告が行われたものが掲載されることになっています。査読は実施せず原則としてすべて掲載するように投稿規程が改訂されていますので、次号以降、自由論題報告とともに奮って投稿のほどお願いいたします。

「その他」のカテゴリーでは、会員の情報交換の場を提供することを目的として、編集委員会において執筆依頼をした原稿(研究ノート)を掲載しています。前号での予告の通り、椎葉淳氏(大阪大学)に再度ご寄稿いただきました。現在価値恒等式に関するサーベイ研究で得られた知見を基礎に、具体的な数値例を使用した理論予想が行われています。これは企業価値評価モデルとしての現在価値等式の可能性を示唆するものであると考えられます。さらに、第4回JARDISワークショップでの研究報告に含まれる論点についても追加提供して頂いています。いずれも興味深い内容になっています。

最後に、編集委員として『年報』の役割を取り戻すことに微力ながらも関与してきたつもりですが、年2回開催される研究大会を1年ごとに刊行される『年報』にまとめる作業は想像よりも難しいものでした。今号の発行をもって、私を含め旧編集委員(再任の先生は除く)は退任します。会員、学生会員、および賛助会員の皆さまの多大なご協力にこの場を借りてお礼申し上げます。第18号からは吉田 靖編集委員長が編集を担当いたします。学会が拡大していく中で、本誌の役割を見直す機会が必要であると考えますが、新委員長のもとで創意工夫を重ねていかれることを期待しています。会員の皆様におきましては、変わらぬご協力とご支援を心からお願い申し上げます。

2018年3月31日